

第8回仙台城跡調査・整備委員会（要約）

- I. 開催日時 令和4年3月14日（月）10時00分～12時00分
- II. 開催場所 市役所上杉分庁舎10階教育局第2会議室
- III. 出席者
- （委員） 藤澤 敦・北野 博司・籠橋 俊光・佐浦 みどり
深澤 百合子・佐々木 貴弘・永井 康雄・堀江 千恵
渋谷 セツコ
- （宮城県） 佐藤 憲幸（教育庁文化財課 技術補佐）
- （事務局） 【教育局】
- | | |
|----------|--------|
| 生涯学習部長 | 筒井 幸子 |
| 文化財課長 | 都丸 晃彦 |
| 文化財課調整担当 | 長島 栄一 |
| 仙台城史跡調査室 | |
| 室長 | 鈴木 隆 |
| 主任 | 大江 美智代 |
| 主任 | 沼倉 幸司 |
| 主事 | 須貝 慎吾 |
| 主事 | 佐藤 恒介 |
| 主事 | 吉田 大 |
- 【建設局公園課】
- | | |
|-----------|--------|
| 公園整備担当課長 | 鈴木 江美子 |
| 青葉山公園整備室長 | 川崎 剛 |
- 【文化観光局観光課】
- | | |
|------------|-------|
| 観光課賑わい創出係長 | 横山 弘達 |
|------------|-------|
- （報道機関） （3社）
- IV. 傍聴人 なし

※会議録の署名について委員長は渋谷委員を指名

1 開会

2 新委員紹介

3 議事

(1)令和4年度の調査予定について

【資料1】に基づき事務局より説明

※質疑なし

(藤澤委員長) 来年度は、登城路の4か所の発掘調査と2か所の石垣測量調査を計画しているとのこと。発掘調査の方はこれまで進めた事業の継続となり、測量調査は大手門復元に向けた基礎の作業と崩壊の危険性が高い石垣を優先しての調査となる。来年度は説明の通り、調査を進めて頂きたい。

(2)令和4～5年度における関連事業との連携について

【資料2-1、2-2、参考資料】に基づいて事務局より説明

(北野副委員長) 今年度に植生調査と危険木伐採を実施し、来年度に植生修景計画を策定した上で、伐採や剪定を実施して都市緑化仙台フェアを迎えるということだが、植生調査や植生修景計画の実施体制について伺いたい。業務委託等をしているのであれば、仕組みを教えて欲しい。また本丸北東側の伐採については、急激な伐採による日照度変化によって斜面の草本類層も変化し、豪雨で表土が流出した事例も他の城郭で報告されていることから、来年度に策定する計画は、そのような影響がないよう段階的に保全や修景を進めてほしい。急激に植生環境を変えるような計画にはしてほしくない。

(事務局) まず、今年度業務委託の形態で実施している植生調査のうち、現在は野外調査が終了し成果をまとめる段階となっている。植生調査の成果に基づいて、来年度策定予定である植生修景計画の内容については議事3で説明する。計画の策定については、計画概要や理念などをまとめた素案を文化財課で作成し、来年度業務委託で進める。

(渋谷委員) 仙臺緑彩館について、この周辺には興味深い事業計画が多くあり、市民の注目が集まる場所になってきているが、事業内容が市民に浸透していないように思える。何らかのメディアを通す等、工夫して市民へ積極的に広報してほしい。

また青葉山は広瀬川や竜の口溪谷など、地学ハイキングの場所として人気が高い。全国的にも、ジオパークやジオツーリングなどがこれから盛んになる流れなので、仙臺緑彩館も、ジオツーリング等の中心になってもらいたい。例えば、仙臺緑彩館をスタート地点として、ガイド付きのジオツーリングプログラムなどがあれば、市民の関心も高まり、利用者も増えるのではないかと。

(公園課) 市民への周知については、来年度上半期に指定管理者を選定し、開館にむけた事業内容

を検討したうえで行き、気運の醸成を高めたい。また、ジオツーリングなどについては、指定管理者と連携しながら検討していきたい。

(佐々木委員) 伊達政宗の胸像の移設場所だが、人の導線から離れているのではないか。また大橋との高低差があるようであるが、この場所を決定するにあたっての議論等があれば教えてほしい。

また、仙臺緑彩館の展示内容について、どのような手続きで決定したのか。監修者や検討委員会等、展示内容の決定経緯を教えてください。

(公園課) 伊達政宗の胸像の移設場所については、大橋から仙臺緑彩館へ降りる階段から入ると、最初に目につく場所に伊達政宗の胸像がある。また国際センター側からの来場者も、公園の奥側へと導くことができる魅力のひとつになると考えている。また、写真撮影のスポットとしても魅力的な場所である。

展示内容については、映像の制作に取り組んでいるところである。映像の内容決定に当たり、市民だけでなく観光客も来場するという観点で観光課と意見交換をしている。映像は、広く市民や観光客に仙台を紹介し藩政時代から杜の都の成り立ちなどの歴史について詳しく学べる内容になっている。関係課と連携し、市民に誇りを持ってもらえる内容を目指している。

(佐々木委員) 了解した。

(籠橋委員) 宮城県美術館での展示は、どの部局が主催及び展示準備をするのか。また仙臺緑彩館という名称について、なぜ旧字の「臺」を使用しているのか。

また仙臺緑彩館の展示内容について議論する委員会があったと思うが、そこでの議論は、展示内容にどのように組み込まれているのか確認したい。

(事務局) 宮城県美術館の展示は、仙台市博物館が運営する。都市緑化フェアの期間中に仙台市博物館が大規模改修の関係で休館になるため、宮城県美術館に協力いただき、代替の形で展示する。

(公園課) 「臺」を使用していることについては、仙臺緑彩館の建設位置が片倉小十郎屋敷跡であり、藩政時代から歴史がある場所である。仙臺緑彩館は、仙台の歴史や文化が未来へつながるように願いを込めて作った施設であり、歴史の部分を表現するために藩政時代に使われていた旧字を使用している。

仙臺緑彩館の展示内容については、歴史、文化、自然等の情報を、広く発信するものを計画してきた。大型モニターではそれらの映像を見ることができ、魅力コレクションモニターでは、仙台の魅力を市民とともに作り上げる装置にしていく方向で考えている。基本的な考え方は委員会で議論した内容から変化していないが、具体的なものについては関係課と連携して進めてきた。

(籠橋委員) 当時の委員会や懇話会の内容を踏襲するということか。

(公園課) そうです。

(藤澤委員長) 「臺」は新聞の写植で見えるか。

(公園課) 既に名称決定の際に新聞記事となったが問題なかった。

(藤澤委員長) それは三大紙での報道か。

(公 園 課) 河北新報である。

(藤澤委員長) 実は、苗字の「澤」は三大紙では表記できないため、簡易な「沢」で良いか新聞社によく聞かれる。「臺」も例外ではないのではないかと。報道などで「台」と「臺」が併存しないか心配である。可能であれば読売新聞、朝日新聞、毎日新聞など全国紙に確認したほうがよい。

仙臺緑彩館の展示内容については、我々も関心が高いところである。現状としては、周辺エリアや立地については、入り口のインフォメーションで紹介し、歴史的な部分については映像資料で表現するというのか。実物史料の展示はあるのか。

(事 務 局) 実物史料の展示については現在検討中である。

(藤澤委員長) 文化財課、公園課、事業者等で連携し、よりよいものを作ってほしい。

(公 園 課) 伊達政宗の胸像設置位置について補足をさせて頂きたい。胸像が設置される場所付近から広瀬川添いに、既存の動線「桜の小道」の延長を整備することとしている。そこを經由して、追廻の奥側まで歩いて行けることになる。

(藤澤委員長) 新たに整備される桜の小道は大橋の下を歩いて歩くイメージか。

(公 園 課) 大橋の下を通ることはできない。道路を横断するためには、国際センター前の交差点まで戻り、横断歩道を渡る必要があるが動線として連続している。

(佐 浦 委 員) 移築後の残月亭は展示されるのみか。それとも茶会等で利用する想定か。

(公 園 課) 現在の残月亭は観覧のみだが、移築後には茶会ができるような整備をしたいと考えている。また仙臺緑彩館の中にも、和室を整備し本格的な茶会ができるつくりにする予定である。それらの連動した利用も検討中である。

(藤澤委員長) 残月亭、政宗像、緑地公園を含めた指定管理か。

(公 園 課) はい。

(渋 谷 委 員) 令和5年度に実施予定の都市緑化仙台フェアをとっても楽しみにしているが、資料のページを見る限り、ガーデニングの域を超えていない。昨今のガーデニングでは在来種は排除され、外来種ばかりがもてはやされている。政宗に所縁のある植物等の展示があると大変興味深い内容になる。仙台城跡に深く関係のある追廻地区で開催するにあたり、当時の植生を意識した植栽等を検討しているのか。

また資料中の町中エリア会場での事業予定に子ども向けの体験プログラムとあるが、こういったものを想定しているのか。

(藤澤委員長) 都市緑化フェアについては担当者が不在ですが、局内でお伝えもらうことはできるか。

(渋 谷 委 員) 次回の委員会の際に教えてほしい。

(事 務 局) 質問については、担当課に文化財課から確認しお知らせする。

(藤澤委員長) 資料によれば、都市緑化仙台フェアの際に設置する花壇などは、フェア終了後も全てを残すわけではなく撤去するものもあると事業内容で記載されている。事務局から話がいったように、文化財課で確認してほしい。

(渋 谷 委 員) 特に樹種や植物の種類について知りたいので確認してほしい。

(北野副委員長) 移設する胸像は文化財指定を受けているのか。

(事務局) 指定していない。

(北野副委員長) 将来、仙台市にとって貴重な有形文化財のひとつになる候補だと思う。そういう観点で移設すると思うが、汚損、破損も考慮して整備して欲しい。本丸の騎馬像はシンボルにはなっているが、胸像も貴重なものであるので留意のうえ設置してほしい。

(藤澤委員長) 胸像には様々な歴史的経緯があり、それ自体が歴史を示すものなので留意してほしい。

(3) 仙台城跡植生修景計画について

【資料3】に基づいて事務局より説明

(藤澤委員長) 基本的には仙台城跡整備基本計画の内容に基づいた計画である。来年度は植生修景計画の策定と、それに基づく植生の管理、整理を行うスケジュールとなっている。

(北野副委員長) 修景整備と眺望はかなり深くかかわるところであるので、視点場などの考え方も計画に含めてほしい。

植生修景整備は自然を相手にするものなので、「短期間で修景整備し、その後は維持管理をする」といった単純なものではなく、10年や20年後を見据えた長いスパンの計画プロセスに位置付ける必要がある。事務局もコンサルタントにすべてを任せ、計画が実行されたら終了と考えず、時間をかけて進めるイメージを持ってほしい。また専門家の意見も取り入れて策定するべきである。

(事務局) 計画期間を定め、ご意見を参考にして進めたい。

(藤澤委員長) 北野副委員長から指摘があったように、伐採によって環境が変化するので経過を観察しながら進めてほしい。

(深澤委員) 本丸東側崖下の蛸崎神社はどのように整備するのか。

(事務局) 本丸東側崖下部は、仙台城跡整備基本計画で保全対象範囲となっているため、蛸崎神社とその周辺は、現状伐採せず保存を想定している。本丸東側崖の眺望に関わる樹木は技術的な問題もあるが、一部伐採や剪定を行い眺望確保を目指す。

(藤澤委員長) この蛸崎神社は史跡指定地外か。

(事務局) 指定地内である。

(藤澤委員長) 当面は現状維持でよいか。

(事務局) はい。

(藤澤委員長) 史跡等で植生修景計画を作成している自治体は、まだ少ない。県内だと多賀城跡が作成している。ぜひ仙台城跡も積極的に作成を進めてほしい。

(4) その他

- ・事務局より今後の予定について説明
- ・宮城県文化財課 佐藤技術補佐から感想

3. 閉会